

## アマゾン流域貧困地帯における地域保健システムの開発

(ボリビア・ベニ県 地域保健システムの開発)

### システム科学コンサルタンツ株式会社

JICA からの発注業務として、「ボリビア国ベニ県地域保健医療システム強化計画調査」が 2001 年 7 月から 2003 年 3 月に亘って行われた。対象地域はボリビア共和国ベニ県(ボリビアのアマゾン地帯)である。調査の目的は国家保健政策に基づいてベニ県における地域保健システムのマスタープラン(M/P)を作成し、代表的なモデル地域を選び実証試験を行い M/P の計画が実現できるかどうかを証明することであった。

本プロジェクトにより、約 2,000 人の受益者がいる都市貧困地域型保健医療モデルにおいて、保健所を訪れる患者数が増加するとともに、女性准看護師による家庭訪問活動が強化され、また外部協力機関としての住民組織の保健委員会が有効に機能するようになった。この結果、乳幼児・妊産婦の疾病・死亡、熱帯感染症に対する早期の予防・治療対応が顕在化した。また、約 4,000 人の少数民族インデヘナが対象となる農村貧困地域型保健医療モデルにおいては、保健所が設置され、女性医療技術者や女性准看護師が配置された。USAID による通信・輸送システムとの連携により裨益地域が大幅に拡大した。約 3,000 人の受益者がいるアマゾン川の移動保健所である診療船(広域型保健医療モデル)によるサービスでは、国際 NGO・USAID・世界銀行との協調による無線と船によるコミュニティーへの濃密かつ遠隔指示が可能となった。このようにベニ県における法制度組織整備を含む医療システムの改変が進み、貧困層への直接の裨益効果が現れた。この実証試験は県及び市町村レベルの委員会に引き継がれ、USAID や世界銀行などのドナーや NGO が参画する形で持続性は確保されている。

以上の点から、本プロジェクトは「人と文化」に焦点を当てて、保健衛生分野で業務が行われた「人がみえる案件」として評価できる。また、調査をアマゾンの少数民族地域で集中的に行い、住民参加型アプローチが採用され、女性准看護師の登用など、女性に配慮した政策が行われる等の特徴がみられる。

ボリビアのメディアでも取り上げられ、また 2003 年 1 月 27 日にトリニダ市とサン・イグナシオ市市長から表彰状を受けた。



診療船